

科目ナンバー	C5204	要件	保育必修	授業形態	演習	対象学生	II A C D
授業科目	保育表現技術（言語表現）						
実施期	前期	単位数	1単位	授業担当者	藤戸 輝子		
【科目の概要】							
子どものイメージや表現力を豊かにするための基礎的な知識及び必要な援助について学ぶ。さらに、言葉や表現に対する興味・関心を高める遊びや教材について知り、保育展開の方法や技術を学ぶ。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	言葉による表現力を豊かにするための教材やその扱い方がわかる。						1-d
イ	子どもに相応しい言葉遣いができ、子どもの表現意欲を高める表現力を身に付ける。						2-d
ウ	季節や行事、子どもの興味・関心等、環境に応じた教材を収集、整理を行い、保育の組立を考える。						3-a
エ	教材や指導方法に関心を持ち、保育が展開できる技術を身に付ける。						4-c
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	子どもの言語発達とその発達を促す人的・物的環境			月 日	毎日、表情筋を動かして発声練習をする。(0.5時間)		
2	保育者として必要な表現力 / 紙芝居の種類とその活用			月 日	次回演じる紙芝居を選択し練習する。(0.5時間)		
3	模擬保育：紙芝居を演じる (1班)(発表)			月 日	他者の発表を一覧表に記録する。(0.5時間)		
4	模擬保育：紙芝居を演じる (2班)(発表)			月 日	模擬保育後の反省・自己評価・今後の課題を記入する。(0.5時間)		
5	手遊び・歌遊びの意義/指導の細案の立て方			月 日	模擬保育の展開を考え、細案を作成する。(1時間)		
6	模擬保育：「手遊び」子どもとの対話を重視した導入・展開 (1班)(発表)			月 日	他者の発表を一覧表に追記する。自己課題の整理(0.5時間)		
7	模擬保育：「手遊び」子どもとの対話を重視した導入・展開 (2班)(発表) 保育における児童文化財の活用 (獲得を目指す力の確認)			月 日	児童文化財の特徴等について調べ、発表に備える。(1時間)		
8	様々な児童文化財の特徴や保育で活用する際の扱い方と実践例 (発表)			月 日	児童文化財の活用のポイントを整理する。(0.5時間)		
9	模擬保育に向け、教材選択と指導の細案の作成/練習			月 日	模擬保育の展開を考え、細案を組み立て、練習をする。(1時間)		
10	模擬保育：児童文化財を活用した保育展開 (1班)(発表)			月 日	他者及び自己評価の整理 (0.5時間)		
11	模擬保育：児童文化財を活用した保育展開 (2班)(発表)			月 日	他者及び自己評価の整理 (0.5時間)		
12	郷土の民話を子どもに/素話の意義と技術			月 日	民話を選び、模擬保育ができるよう練習をする。(1時間)		
13	模擬保育：素話 (奈良の民話又は故郷の民話から) (1班)(発表)			月 日	演じた感想及び聞いた感想を整理する。(0.5時間)		
14	模擬保育：素話 (奈良の民話又は故郷の民話から) (2班)(発表)			月 日	演じた感想及び聞いた感想を整理する。(0.5時間)		
15	言葉を豊かにするゲームやわらべ歌遊びの実際 / フィードバック			月 日	ゲームやわらべ歌遊びを一覧表にまとめる。(0.5時間)		
16				月 日			
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
保育者のための言語表現の技術 編著：古橋和夫 萌文書林 ※ 保育内容演習（言葉）でも この教科書を使用				平常点（意欲・態度・事前準備）20% 提出物 20% 表現技術 30% 確認テスト 30%			
【参考書・教材】							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
この授業専用のA4サイズのノートを作成。必要に応じてノートを回収するので毎回持参すること。(1回目から必要) 教材研究に図書館を利用するので、他の利用者を意識して行動し、図書館利用規程に従うこと。 模擬保育にあたり、準備や練習が不足している場合は、その者の模擬保育は中断するものとする。							
【履修上の遵守事項】							
【連絡先・オフィスアワー】							
連絡先： N15				オフィスアワー：			

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	児童文化財に関する知識・理解		どのような児童文化財があるのか、その種類が言える。	児童文化財それぞれの特徴を言うことができる。	児童文化財それぞれの扱い方を理解して保育展開ができる。
イ①	わかりやすい言葉表現の技能		模擬保育において、子どもに相応しい丁寧な言葉を使うことができる。	模擬保育において、子どもが理解できる言葉を使い、わかりやすく話すことができる。	さらに、子どもにとって理解しがたい言葉を把握し、わかりやすい言葉に置き換えて話すことができる。
イ②	表現意欲を高める言語表現の技能		模擬保育において、子どもの顔を見て問いかけることができる。	臨機応変に、子どもの反応に応じることができる。	子どもも楽しむことができ、自分自身も楽しく模擬保育ができる。
ウ①	教材の整理能力		子どもの言語活動を豊かにする遊びを調べ、一覧表を作成している。	遊びの内容に加え、適切な年齢や時期を記入している。	さらに、それぞれの配慮や、子どもの学び・育ち等も記入している。
ウ②	保育を組み立てる力		子どもの年齢や季節等に相応しい教材を選択することができる。	模擬保育ができるよう、保育を組み立てることができる。	子どもに保育者の意図が伝わるよう、保育を組み立てる事ができる。
エ①	教材研究に向けた意欲		教材は、インターネットで探した。	図書館を利用して教材研究を行った。	友達と図書館に行き、相談しながら教材研究を行った。
エ②	保育技能獲得への意欲		イメージトレーニングをした。	鏡の前で声を出したり、実際に動いて練習した。	誰かに見てもらって、練習をした。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					